

## 人権を大切に それは一言から

見能林小学校

六年

丸山 詩織

(敬称略)

みなさんは、日常生活の様々な場面で相手の言葉がきついたり感じたことはありませんか。例えば、だれかを注意する時、だれもがきつつかない言葉を選んで言うことができますか。きつい言葉で言われると、不快な気持ちになったり、悲しい気持ちになったりします。そして、その注意を素直に受け入れることもできなくなります。相手のことを思っていていたとしても、その気持ちは伝わらないと思います。私は、だれかがきつづくすどい言葉をなくしたいと思っています。そう思ったのは、学校生活でのある体験がきっかけです。

休み時間に休けいしていると、「お前」という言葉が聞こえてきました。相手のことを「お前」と呼んでいる人は、遊び半分で言っているのか、悪意をもって言っているのか、その呼び方を聞くたびにそう思っていました。その相手には、親がつけてくれた名前があるのに、名前を呼ぶのではなく、「お前」と呼ぶのは、よくないと感じていましたが、相手が何も言わないので、それでいいのだと思っていました。

でも、ある日私自身も「お前」とよばれました。少し不快な気持ちになったので、「やめて。」と言おうとしましたが、言えなかったのです。「言わない」のではなく、「言えない」自分に気づきました。

その数日後、先生が友達に対する呼び方について話をしました。「友達のことを呼ぶときにお前と言っている人がいるけれど、お前と呼ばれて不快な気持ちになる人はいますか。手を挙げてください。」

と言われ、周りを見てみると私以外にもたくさんの方が手を挙げていて、私と同じ気持ちだったことにおどろきました。やはり、みんなもきちんと名前を呼んでほしいのだらう、そして、「お前」という呼び方は相手を不快にさせるのだと感じました。その後、「お前」という呼び方がクラスの中で減ってきたと感じました。

このことから、たった一言の言葉の大切さを実感しました。たった一言で相手をきずつけます。でも、一言で人の心を温め、楽にさせることもできます。私たちが相手とコミュニケーションをとれるのは、言葉があるからです。それを上手に使うかどうかは、一人一人の心がけしだいだと思います。言葉を発する前に、自分の心でしっかりと判断し、思いやりのある

言葉で伝えることが大切です。だれもが幸せに生活することができるように、相手に相手の思いによりそい、助け合って生活することができるようになるには、お互いがいの権利を大切にするために、言葉を大切にしていかなければならないと思います。自分の言葉に責任をもって、そして、一言の重みをしっかりと感じて、言葉を使っていかなければならないと思います。私もこれから言葉の大切さを意識して、思いやりのある言葉を使っていきたいと思います。